

# 教育センター研修だより



南砺市教育センター

## 小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会⑤

下記の通り、南砺市小中学校の先生方を対象に、小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会を実施しました。

1 日時	平成30年9月25日（火）	14:50～16:40
2 会場	南砺市立福光東部小学校	
3 講師	外国語専科教員 中谷 真由美先生	
4 参加者	小学校教諭	32名
5 内容	小学校外国語活動（6年）の授業の実際（授業観察等） ～新教材の活用～	



### 【研修会の内容】

#### 1 授業観察と授業のポイント解説

単元名 「My Summer Vacation was Nice!」 (We can! Unit5)  
～小学校最後の夏休み。夏休みの思い出について伝え合おう。～

本単元では、「夏休みの思い出を伝え合おう」という課題を設定し、“How was your summer vacation?” “I went to～. I ate～. It was～.”という過去形の英語表現を用いたコミュニケーション活動を行う。

本時(3/5時)は、「夏休みに行った場所や食べ物、気持ちや感想等を表す表現に慣れ親しむ」時間である。

- 【本時の活動】 ① Food Jingle、Today's Letter をする。 ② 感想を表す表現を知る。  
③ チャンツをする。 ④ カードゲームをする。 ⑤ 振り返りカードを書く。

#### 表現のイメージをもつ



行った場所や食べたものだけでなく、その時の気持ちや様子も伝えた方がよいことに気付くように、教師とALTで2つの例を見せる。

#### 感想（気持ちや様子）を表す表現を知る「It was fun / delicious / 」



意味や言い方を理解しやすくするために、ピクチャーカードを掲示したり、ジェスチャーを示したりする。



### 授業の工夫点

#### <2つの例について>

2つの例（気持ちや様子があるものとなないもの）を提示し、どちらの例がよいかを考えさせた。児童は「感想（気持ちや様子を表す表現）があるほうがよい」と気付き、必要感をもって「気持ちや様子を表す表現」を学ぶことができた。

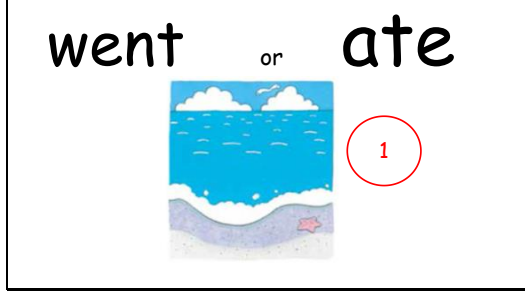
<Went と Ate の説明用スライド>

「My summer vacation」の単元ではたくさんのお新出表現が出てくる。児童の負担を減らすため、使用する動詞を「went (行くの過去形)」「ate (食べるの過去形)」に絞った。

1. 

What did Nanto-kun say? "I **went** to the mountains".  
When did he go to the mountains? (Show date.) Now? No, in July.  
What did Nanto-kun say he did in the mountains? (Point to picture.) That's right. "I **went** hiking".  
【訳】なんとくんは何と言いましたか。「ほくは、山へ行きました。」ですね。彼は、いつ山へ行きましたか。(日付を見せながら)今?いいえ、7月ですね。(写真を指しながら)なんとくんは、山で何をしましたと言いましたか。そのとおり、ハイキングに行ったのですね。

2. 

3. 

3. Went or Ate? Yes, I went to the sea.

感想 (気持ちや様子) を表す表現に慣れ親しむ [ラッキーカードゲーム (ドボンゲーム)]

I ate ice cream.  
It was delicious.



カードの絵を見て、「I went～」  
「I ate～」のどちらかを選んで文  
をつくり、伝え合う。

2 「慣れ親しみ」の活動の体験



アルファベットを書く「背中伝言ゲーム」等、たくさんのアクティビティを体験した。

今回の研修で使用した資料、外国語の授業に役立つ教材は、以下のフォルダーにあります。ご活用ください。他の教科も同様に共有したらよいと思われる資料はフォルダーに保存して、みんなで使っていきます。

小中学校共通¥10 教育センター¥◎教材◎  
¥小学校¥10 外国語

参加者の感想より

- 過去形の文法を用いて、すらすらと発音する子供たちの姿に驚いた。子供たちが外国語に抵抗を感じることなく取り組むことができるようにするためにも、楽しい活動や分かりやすい説明、教材が必要不可欠だということが分かった。質問の仕方を学習する際には、「What's your name?」や「How old are you?」などの分かりきったことを質問するのではなく、「知りたいな」と思うことを質問することが大切だと分かった。
- 「夏休みのことを英語で話したい」という子供の思いが強いほど、主体性は高まると感じた。よく使う「go」「eat」の表現にしばったことで、より過去形に慣れることができた。絵カードを用いたことが、気持ちを表現することへの慣れにつながったと思う。
- 書く活動の指導の留意点、視覚に訴える教材提示、扱う単語を絞り子供が選択できるようにすること等を学んだ。体験活動では、子供が聞いてみたいと思えるように、氏名や年齢をルールに従って決める工夫を知ることができた。これを参考にして、子供が主体的に取り組める活動を考えてみたい。
- 様々なゲームが簡単にでき、楽しめる手法がたくさんあることに気付かされ、有意義だった。見る、聴く、発声する、ワークシートを書くなどの活動に子供たちの差が出るが、それをそろえたり、指示を確かにしたりして、同じ活動ができるように配慮することが大切だと思った。